

特定非営利活動法人 日本免疫学会
2019 年度 後期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	笹井 恒雄	会員番号	0036117	
申請者の所属・職名	京都大学大学院医学研究科 内科学講座 臨床免疫学			
出席会議名	The 2019 American College of Rheumatology (ACR) Annual Meeting			
発表論文タイトル	Maintenance Therapy for Anti-MDA5-Positive Dermatomyositis Patients with Interstitial Lung Disease - Can They Achieve Drug-Free Remission ?-			

実施結果:

この度は 2019 年度後期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award に採択いただきまして誠にありがとうございます。

私は 2019 年 11 月 10 日～13 日までアメリカのアトランタで開催された The 2019 American College of Rheumatology (ACR) Annual Meeting に参加させていただきました。ACR はヨーロッパで毎年開催される EULAR (European Congress of Rheumatology)と並んでリウマチ学分野における世界規模の学会集会で、世界各国から臨床免疫・基礎免疫に関わる多くの研究者が集い活発な意見交換が行われる学会です。

私は抗 MDA5 抗体陽性間質性肺炎における寛解後の維持治療について、京都大学のデータを報告させていただきました。抗 MDA5 抗体陽性間質性肺炎は急速な呼吸不全をきたす予後不良の疾患でしたが、現在では強力な免疫抑制治療(ステロイド、カルシニューリン阻害剤、シクロホスファミド)により多くの例で長期生存が可能となってきております。

一方で寛解達成後の臨床的予後については不明な点が多かったため、今回京都大学医学部附属病院の患者データを集め解析いたしました。結果の要旨としては、強力な免疫抑制治療を行うことで、従来の治療と比較して寛解達成後の維持期においても再燃率が低く、また維持治療として必要なステロイドの使用量を有意に減らすことができました。また、ステロイドやカルシニューリン阻害剤を離脱できた割合も高いことがわかりました。

上記の内容をポスターで発表させていただきましたが、多くの人々が当ポスターに集い、また様々な質問をいただくことができました。膠原病分野において、維持治療としてのステロイドや免疫抑制剤が不要になるということは、膠原病に関わる多くの臨床医にとって大変驚くべき結果なのだと改めて実感することができました。

また、ポスター発表以外にも今回多くのセッションに参加し、最新の知見を多く得ることができました。免疫学は基礎での研究内容がそのまま臨床に生かされやすい学問分野ですが、本学会で得た知見を私自身の研究や、今後の患者さんへの治療に役立てることができるよう日々精進しようと改めて実感しました。

最後に、この素晴らしい学会に参加する機会を与えていただいた日本免疫学会の岸本忠三先生、選考委員の方々、またご推薦いただいた大村浩一郎先生に厚く御礼申し上げます。